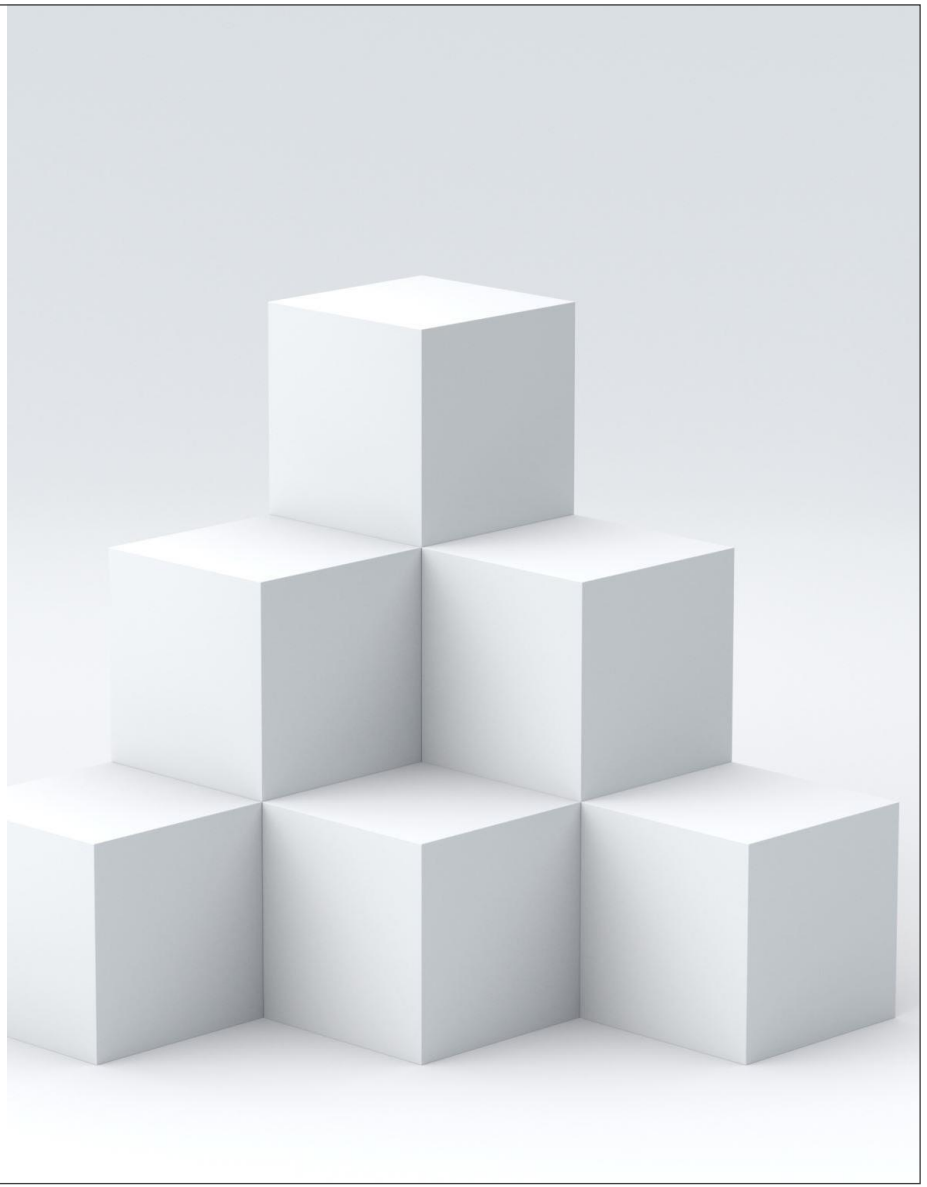
部活動改革2.1
～部活動の地域移行を考える～



第6回部活動のあり方を考えるミニ研究集会
学習院大学長沼研究室
2020．9．5

科研費研究2019-2021（長沼）

◦先行事例を分析・考察し、あり方を提案

＊合同部活動

＊拠点校方式

＊地域移行

＊ゆる部活など

⇒11月15日の中間発表会で研究成果を公開

論点整理

■部活動の地域移行の意義と課題

	意義	課題
生徒	持続可能性、異世代の学び	移動の手間
教員	異動に左右されない	地域でも指導する人の負担
保護者	指導・運営等で関わる機会	負担（費用・送迎等）
学校	働き過ぎの是正	連携
地域	教育力の向上、連帯感の醸成	人・物・金の確保と運営

部活動３原則（長沼）

１．生徒の部活動への参加は任意である
（全員加入制を廃止する）

２．教員の部活動顧問への就任可否は選択できる
（全員顧問制を廃止する）

３．部活動の顧問は辞書的意味の顧問である
（技術・技能の指導者である必要はない）

部活動改革の6つのフェーズ（長沼による） ver.2

フェーズ1	休養日の設定＋活動時間の上限設定
フェーズ2	外部指導者（または部活動指導員）の確保
フェーズ3	顧問の選択制の導入＋生徒の全員加入制の廃止
フェーズ4	外部クラブの組織化または企業支援の導入
フェーズ5	勤務時間内の部活動＋それ以外の活動の外部化（多治見方式）
フェーズ6	必修クラブ活動の復活＋部活動の学校外への移行

2018.8 ©長沼豊

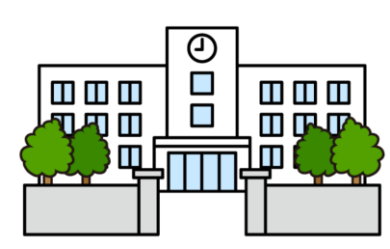
【ver.1からの変更点】 スポーツ庁のガイドラインの内容を踏まえ、フェーズ1に活動時間の上限を記述
長沼による部活動3原則の策定を踏まえ、フェーズ3に生徒の全員加入制廃止を記述
従前の「外部化」の意味を明確にするため、フェーズ6の記述を変更

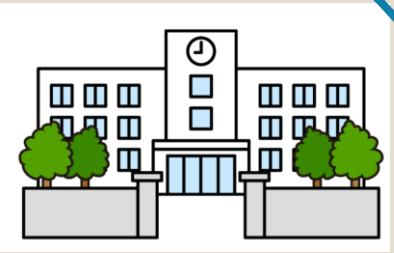
長沼の考え

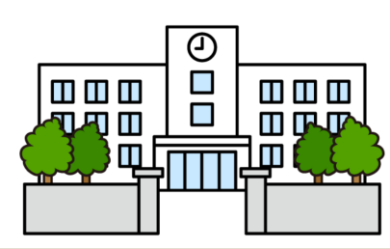
- 段階的移行時　⇒より過酷な活動にならないよう歯止めを
- 地域の活動　⇒社会教育の出番
- 教育委員会による人材確保（育成と資格制度を含む）
- 平日の活動　⇒合同部活動や拠点校方式を経て地域移行を
- 地域の活動　⇒目的別に構成する
  （学校部活動の最大の問題は目的が混在していること）
- ますます進む少子化に対応していく

拠点校方式

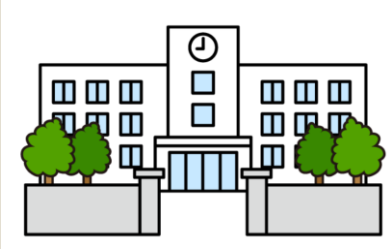
合同部活動



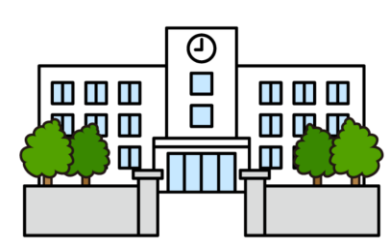




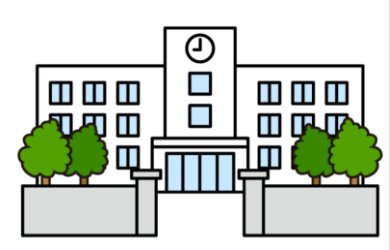
バスケ（合同部活動）



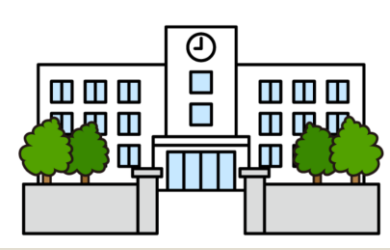
野球（拠点校）



サッカー（拠点校）



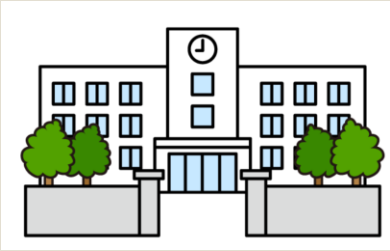
バスケ（拠点校）



吹奏楽（拠点校）

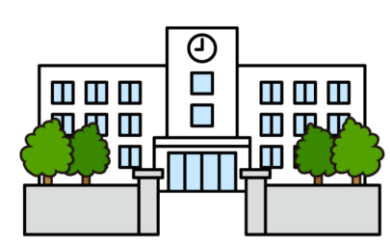
まずは合同部活動や拠点校方式に
（どちらも生徒が移動して行う方式）
⇒拠点（活動場所）を地域に移行
　or場所は学校で運営主体を学校から地域へ

目的別拠点（校）方式



選手養成バスケ部

異年齢交流型バスケ部
（地域展開）



趣味のバスケ部

●生徒は地域の活動拠点の中から目的別に選べる
（放課後に移動が伴うのは同じ）
●この段階を経て全面地域移行へ（平日も）

★学校は同じ事をやるという発想を変える
（教育課程外で、放課後・休日だからこそ可能）
（少子化にも対応できる）